

# 平成28年度 北海道森林管理局の主な取組

北海道には、全国の森林2,508万haのうち

の2割ほどの554万haの森林が集中しており、北海道森林管理局では、そのうちの約5割を占める304万haの国有林を管理しています。

その8割近くが天然林で構成され、世界自然遺産である知床をはじめ、原始的な森林が広がっており、希少な野生生物が生息するなど、学術的にも価値の高い森林が数多くある一方で、戦後植栽されたトドマツやカラマツなどの人工林資源が成熟し、循環利用できる資源として、林業・木材産業の成長による地域振興や循環型社会の構築への貢献が期待されています。

北海道森林管理局は、公益重視の管理経営の一層の推進、森林・林業再生に向けた貢献に向け、組織・技術力・資源を活かし、民有林関係者とも連携を図りつつ、以下の事項に重点的に取り組めます。

## 公益重視の管理経営の一層の推進

### ①天然力を活用した多様な森林づくり

天然更新を活用したトドマツ人工林の新たな施業タイプによる天然更新の技術の確立、地表処理等による天然更新の誘導、モザイク施業等を活用した育成複層林への誘導等により、天然力を活用した多様な森林づくりに取り組めます。



地表処理等による天然更新施業技術の確立

天然更新を活用したトドマツ人工林の新たな施業タイプの開発



### ②希少種の保護管理等

シマフクロウの生息環境の整備とモニタリング、レブンアツモリソウの固定プロット調査等、希少野生動物植物の保護管理を適切に実施します。



レブンアツモリソウ

平成27年度に改良した治山ダムを効果を検証しつつ、斜里川流域における河川工作物の改良工事に引き続き取り組めます。

【平成27年度魚道改良工事箇所(斜里川)】



中央部を改良し、階段状の魚道を設置しています。

### ③山地防災力の強化

災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、崩壊地等の早期の復旧整備や、事前防災・減災対策に取り組まます。実施にあたっては生物多様性への配慮や木材利用の推進に努めます。

【浦河町字井寒台：平成25年度山腹工事施工箇所】



(平成25年12月工事完成時)



(平成28年4月完成後2年経過)

④エゾシカ被害対策の推進

北海道と連携した被害調査、囲いワナ及び誘引狙撃による捕獲、狩猟者の利便性の向上などに加え、平成28年度は、エゾシカ対策の技術向上に向けて、移動式小型囲いワナと誘引狙撃を組み合わせて森林内で機動的に捕獲を行う手法の検討、捕獲個体の活用推進などに取り組みます。



↑ モバイルカリングによる車上からの狙撃

↓ 小型囲いワナによる捕獲



⑤森林環境教育・木育活動の推進

平成28年から8月11日が国民の祝日「山の日」となることも踏まえ、北海道と連携して、道民との協働による森林づくりを進めます。植樹祭をはじめとするイベントの開催や情報発信など、森林環境教育・木育活動に取り組みます。



⑥アイヌ政策への貢献

平成25年4月に、北海道森林管理局、北海道アイヌ協会平取支部、平取町との間で締結した「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画〜コタンコロカムイの森づくり〜」

アイヌ文化の伝承に必要な広葉樹の育成  
作業部会による現地検討（平成27年9月）



アットウシ織  
オヒョウ等の樹皮から作った糸を織ったアイヌの織物



包括協定に基づき、平取町内の国有林において、北海道本来の森林の再生等に取り組みます。また、道と連携し、伝統的工芸品「ニ風谷アットウシ」の原材料となるオヒョウーシの安定的な供給に取り組みます。

森林・林業再生に向けた貢献

①造林の省力化・低コスト化

秋植えの適期が短い北海道の条件に応じた、伐採から地拵えまでの一貫作業システムの試行導入、コンテナ苗や優良品種の導入、大型機械地拵えの拡大等により、造林事業の省力化・低コスト化に取り組みます。また、技術開発の成果について、民有林への普及・定着に資するよう、事業レベルでの実証に取り組みます。

コンテナ苗や優良品種の導入

オーガを使った植付作業



初期成長が優れたクリーナーチの植栽

※オーガ：エンジン式穴開機

※クリーナーチ：カラマツとグイマツの雑種

伐採から地拵えまでの一貫作業システムの試行導入



② 優良種苗による更新  
及び苗木不安定供給

北海道とも連携し、カラマツに加えトドマツ採種園において、着花促進処理（環状剥皮）や路網整備等の取組を進めます。

また、国有林が必要とするコンテナ苗の品質・規格の標準化や苗木の需要見通し等についての情報提供に努め、苗木生産事業者等との連携を強化します。



「コスト抑制を目指した夏季節植栽でのコンテナ苗の活用」現地検討会を開催（石狩署）

受光伐前の着花促進（環状剥皮）



③ 路網整備

林道工事の早期事業発注、円滑な事業実行により、森林整備の着実な推進を図ります。

また、林道施設（橋梁等）の長寿命化に向け、北海道と連携し、現地検討会の実施やチェックシートの作成などに取組みます。

更に、森林土木工事において、若手技術者・女性技術者等配置型工事の試行工事件数の拡大を図ります。



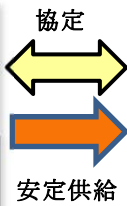
林業専用道による間伐の実施（美瑛町）

④ 国有林材の安定供給、木材利用の拡大

木質バイオマス発電や地域熱利用への貢献、地域の農林水産業への

寄与、道産材の付加価値向上、TPP対策、地方創生等に重点を置いた、立木及び丸太のシステム販売等に取り組み、国有林材の安定供給を図ります。

国有林



製材工場やチップ工場等の木材加工事業者、素材生産業者、流通事業者



建築資材、農林水産資材、バイオマス燃料等への供給

木質バイオマス発電施設（FIT 対応）



木質バイオマスボイラー（地域熱利用等）

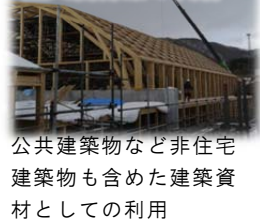


家畜敷料 農産物の緩衝材等



道内の農林水産業への利用

新たな建築資材や輸入製材品の代替



公共建築物など非住宅建築物も含めた建築資材としての利用



森林管理局主催の検討委員会等を活用しつつ関係機関や関係者との意見交換。



木材加工施設の調査による原木のユーザーである木材加工事業者の声を聴く



建築物の構造見学会等により建築事業者や施主等のエンドユーザーのニーズ把握。

また、道内の木材利用状況の把握・分析、関係機関等との情報共有や意見交換等を積極的に行うことにより、需要に応じた供給や木材利用の拡大に取り組めます

⑤ 民有林支援

北海道と連携して、森林・林業の再生に向けた市町村の取組を支援します。

具体的には、市町村森林整備計画の実行管理の支援等を推進するため、全市町村に設置された市町村森林整備計画実行管理推進チームへ積極的に参画します。

また、後志森林管理署の低コスト作業システムの構築に向けた取組等、優良な取組事例を道内に広く普及する取組を行います。

さらに、森林管理署が実施する現地検討会や試験地調査等について、市町村等にも参加を呼びかけ、自治体職員等の人材育成を支援します。  
(業務調整課)



後志森林管理署では工程管理が容易に出来る低コストシステムを構築。林業関係者へ説明会等を行い地域へ普及を推進。



上川南部森林管理署は南富良野町の取組を支援するため、木質バイオマス資源の活用に向けフォワーダの集荷の工程調査、現地検討会を実施。



左：関係機関等で構成される市町村森林整備計画実行管理推進チーム会議の様子  
(上川中部署)



右：民国の森林情報共有に向けた害虫被害現地勉強会の様子  
(網走西部署)



北海道森林管理局では、道民のみならず、全道ともに健康な森林づくりを進めてまいります。

4月15日(金)、「北海道森林管理局の主な取組」について、マスコミ各社向けの記者発表を行い、記者のみならずから熱心な質問をうけました。

主要事業量

区分	単位	平成27年度当初	平成28年度当初	対前年比	
販売量	立木販売	千m <sup>3</sup>	552	680	123%
	製品販売	千m <sup>3</sup>	596	626	105%
造林	更新	ha	( 304 ) 1,211	( 221 ) 1,485	123%
	保育	ha	( 884 ) 17,234	( 3,071 ) 13,006	75%
林道	新設	km	( 7 ) 47	( 10 ) 41	87%
	事業費	百万円	( 218 ) 1,963	( 234 ) 1,955	100%
治山事業	百万円	( 260 ) 3,314	( 552 ) 3,183	96%	